



●学会情報を濃密に発信して欲しい

日本色彩学会に所属する最大のメリットは色彩に関する情報に接することができ、その情報を役だて、学会員が成長できることではないかと思っている。

その情報の主なものは、学会誌であり、全国大会や研究会大会の発表であり、支部や研究会主催のイベントなどである。また、それらの情報を伝える手段に使われている学会から発信されている「学会メールニュース」であり、更に種々の会合で出会う研究者との出会いである。コロナの出現で、それらの情報の濃密さが損なわれてきたように思われるのでアフターコロナの良策も考えて欲しい。

色彩教材研究会は週刊で「研究会通信」を研究会員宛に配信して350号を超えたが、全ての研究会が、情報発信の量を上げていくのも学会情報の充実に寄与すると思う。

世の中の情報の流れは、SNSの出現で大きく変わってきたように思うが、SNSを上手に利用して学会内の情報を、外部に流して、学会員の増加を図っていくことも、当面の課題のように思う。これには、SNSに関して深い造詣のある方に積極的な企画をお願いする必要があることは確かである。いい方と前例が見つかれば幸いである。 (永田泰弘)

源氏物語の色-46「竹河」

光源氏の養女であった玉鬘(たまかづら)は亡き髭黒大将との間の二人の姫君たちの行方を気にかけていた。その美貌の評判から長女、大君に、想いを寄せる者は多く、夕霧の息子つまり亡き光源氏の孫にあたる蔵人少将(くろうどのしょうしょう)は、とりわけ、熱心に求婚していた。

春三月、桜の咲く頃、蔵人少将は、友人である玉鬘の三男に会いに玉鬘の邸を訪れる。そこで姫君たちは、坪庭の桜の所有を賭けて碁を打っている。蔵人少将は、廊下の戸から大君の姿を垣間見て、ますます恋慕する。

このとき、姉妹は十八、九の歳ごろで大君は、「桜の細長、山吹などの季節にあった色合い」を、次女、中の君は「薄紅梅に桜色」をまとっていると書かれている。「山吹」は、表・朽葉(くちば)、裏・黄、「薄紅梅」は薄い色の表・紅、裏・蘇芳の紅梅襲(がさね)を表しているであろう。どちらも春の襲(かさね)の色目に分類される。

上代に中国から伝来した碁は、この物語の時代には男女を問わず盛んに行われていたとされる。庭に咲く桜の花を背景に華麗な衣装の姫君たちが碁を打つ美しい姿を想起させる印象的な場面である。 (平山和香子)

●大辞泉ひろいよみ 30一え

絵地図：記号を用いず、絵で表した地図。大まかな位置関係を示すときなどに用いる。

絵付け：陶磁器に、絵模様を描き、焼き付けること。

江戸絵：浮世絵版画の前身となった紅彩色の江戸役者絵。江戸中期から売り出された。二、三色刷りからしだいに多彩となり、錦絵として人気を博した。紅摺絵。東錦絵。

江戸小紋：江戸時代の武士の袴に用いられた染め物。柄が非常に小さいにもかかわらず、遠目にはっきり見える。一色染めが特色。

江戸染め：江戸で染めること。また、その染物。特に、江戸紫に染めたもの。

江戸紫：武蔵野に生えていたムラサキの根を染料として江戸で染めはじめたところから、藍色の勝った紫色。江戸を代表する染め色とされた。ムラサキの別名。

絵梨子地：蒔絵の技法の一。模様の一部に粉を淡く蒔いて色彩的変化を表すもの。高台寺蒔絵の技法的特色の一。

絵の具：絵に色をつけるための材料。ふつう日本画・水彩画・油絵用の水・油などで溶くものをいうが、広くはパステル・クレヨンなども含めていう。顔料。

絵肌：絵の材料が与える効果。 (永田泰弘)